令和５年度「授業改善推進プラン」（全体計画）

板橋区立　志村第四小　学校

■児童・生徒の学力の状況

〇意欲的に学習に取り組む児童が多い。
〇自分の考えをもち、表現することに苦手意識をもつ児童が多い傾向がある。
〇板橋区授業スタンダードに則り、学習のめあてをもち振り返りを行う一連の学習の流れが身に付いている。一方で、基礎的な学力の差が大きく、自力解決の力が育っていない児童が一定数いる。
〇「全国学力学習状況調査」の結果から、算数科の学力に課題があるといえる。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題
※「読み解く力」の育成を踏まえて

〇児童が主体的に学習に取り組む時間（考える、伝える、書く等）や、本時の目当てについて児童自身が振り返る時間は定着しているが、児童の取り組みに個人差がある。
〇Input（認識）Think（思考）Output（表現）の１単位時間の流れを意識して、授業をデザインする必要がある。
〇ICT機器、デジタル教材等を効果的に活動した授業の取組について、継続的に研修や情報交換を行う必要がある。

■学校経営方針より（学力向上に関わる内容から）

〇児童一人一人に基礎的・基本的な学力の定着を図る。
・漢字や計算等のモジュール学習、東京ベーシックドリル、タブレットの学習材（ドリルパーク）等の有効的な活用、習熟度別少人数指導（算数）の実施。
・学力向上推進週間の取組（全教職員）、親子でチャレンジ学力向上推進週間の取組、家庭学習の習慣化
・補習教室や個別学習の充実（放課後、長期休業中等）
・読書活動や言語活動の充実。（読書旬間、朝読書等）
〇児童に探究的な力が付くよう、校内で総合的な学習の時間と国語科（低学年）・外国語科（専科）を中心とした研究授業を行う。
・問題解決型・探究的な学習を中心とした児童の主体的・対話的な学習を基に、柔軟な思考力・的確な判断力・豊かな表現力等、生涯学習の基礎を培うことをねらう。
・「板橋区授業スタンダード」に基づいた授業を継続的に実践する。

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点１ 板橋区授業スタンダードの徹底	視点２ 読み解く力の育成	視点３ 総合的な学習の時間との連携
〇本時の具体的なめあてを掲示し、一人一人の児童がめあてについて振り返りを行う時間を毎時間設定する。 〇振り返りの時間の中で学びを充実させるとともに、自己肯定感や次の学びへの意欲等を高めていく。	〇教材研究をする際の視点として活用し、児童が文章を読む際につまずきそうな部分を確認する。 〇文章を書く活動では主述に気を付けさせたり、語句を正しく使うよう声をかけたりすることで、文章を正確に書いたり読んだりする意識を醸成していく。	〇「課題設定→情報収集→分析・考察→課題解決→新たな課題の設定」という学習の流れを定着させる。 〇校内での授業研究を通して、自ら考え、判断し、主体的に課題解決ができる体験や学習を意図的に取り入れる。

■いたばし学び支援プラン２０２５の実現に向けた具体的な取組

小中一貫教育の推進 板橋のiカリキュラムの活用	カリキュラム・マネジメントの推進	ICT環境の適切な維持と活用 個別最適な学び・協働的な学びの実現
〇学びのエリアで授業規律について共通化し、児童及び教員間の交流や連携を通して、円滑な接続やよりよい成長へとつなげていけるようにする。 〇小中一貫を見通した環境教育の推進やキャリア教育の充実を図る。総合的な学習を中心としながら、適宜指導計画に基づいた授業実践を行う。 〇社会科、生活科・総合的な学習の時間、道徳科を中心として郷土愛の育成に努める。地域人材、学校支援地域本部のボランティア人材を積極的に活用し、さらなる学習環境の充実を図る。	〇校内での授業研究を通して、教科横断的な視点で教育課程を編成する。具体的には、総合的な学習の時間を中心としながら他教科における学びを生かしたり、学校行事とも連動させたりしていく。 〇ＰＤＣＡサイクルを意識しながら授業改善を行う。情報活用力や問題解決能力を高めるために、日々の実践について計画、実施、評価、改善を繰り返し、長期的な視座をもちながらカリキュラムの改善を進めていく。そのために、授業研究の機会、学校評価、児童の振り返りを活用する等していく。	〇１人１台端末を活用していく。具体的な場面として「資料の共有」「意見の交流」「配布された課題の提出」「情報収集」「発表用の資料作成「共同編集・作成」があり、その中で学びを深めるためのツールとすること、モラルについて指導することを徹底していく。 〇指導の個別化と学習の個性化を意識し、児童が主体性をもって学ぶことのできる場を設定していく。また、自力解決と集団解決の時間を確保し、１単位時間の中で学習の流れが作られるよう、志四研修（教員研修）を実施することで職員間の共有を図っていく。